

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 26 年 5 月 15 日 (2014.5.15)

【公表番号】特表 2013-527562 (P2013-527562A)

【公表日】平成 25 年 6 月 27 日 (2013.6.27)

【年通号数】公開・登録公報 2013-034

【出願番号】特願 2013-503076 (P2013-503076)

【国際特許分類】

H 0 1 B 7/02 (2006.01)

H 0 1 B 7/14 (2006.01)

H 0 1 B 13/14 (2006.01)

D 0 6 M 15/227 (2006.01)

D 0 6 M 15/263 (2006.01)

B 3 2 B 15/02 (2006.01)

B 3 2 B 15/085 (2006.01)

B 2 9 C 47/02 (2006.01)

【F I】

H 0 1 B 7/02 F

H 0 1 B 7/14

H 0 1 B 7/02 Z

H 0 1 B 13/14 A

D 0 6 M 15/227

D 0 6 M 15/263

B 3 2 B 15/02

B 3 2 B 15/08 1 0 3

B 2 9 C 47/02

【手続補正書】

【提出日】平成 26 年 3 月 28 日 (2014.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

マルチフィラメント・ワイヤー 10 は好ましくは銅から成るが、アルミニウム、銀又はスチール等の他の適当な導体から成ってもよい。このワイヤーは好ましくは 30 ~ 70 本のストランド（又はより線；strand）、より好ましくは少なくとも 50 本のストランド、典型的には約 61 本のストランドを含んで成る。個々のストランドは、ストランドが近接近した状態で 1.6 mm^2 の導体で好ましくは 0.5 ~ 0.7 mm、好ましくは約 0.58 mm の径を有する。サイズの大きなストランドは、ストランド間のより圧力のかかるポイントや隙間で低い可撓性になり易く、薄壁のコアに悪影響を与える。又、光ファイバー導体等の非金属コアが使用されてよい。導電性コアの径は 1.6 mm^2 の導体で好ましくは 4.80 ~ 5.10 mm である。外側のストランドは、円形で、なだらかで、ストランドの高低差がないコンパクトな外面および低いコロナインパクトを供するために、10 % 好ましくは 5 ~ 9 % 好ましくは詰められる。又、標準的なケーブルのワイヤー中のストランドがコア径の 1.2 倍のより長さを有することに比べ、本発明のワイヤーのストランドはコア径の 6 ~ 8 倍のより長さを有することが可能である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

マリン・ケーブル用に、現在の44本のワイヤープラットフォームの使用を更に改良する新しい材料化合物が開発されている。コア材料は、標準の44本のワイヤーコア化合物(3.8)よりも低い誘電率(3.1)に設計されている。これにより、コアを互いに近づけて詰めることができ、新規の高い定格電圧を同じサイズのケーブルから得ることができる。良好な可撓性、靱性を供し、又、10,000kmという長さが長い場合であっても、不良なく押し出し可能なPVdFホモポリマーおよびPVdFコポリマーから成る特有な組合せに基づく新規の外側のPiジャケット層が開発された。